

令和 5 年 6 月 27 日現在

機関番号：17301

研究種目：基盤研究(A)（一般）

研究期間：2018～2021

課題番号：18H03604

研究課題名（和文）東アフリカにおける未来の人口高齢化を見据えた福祉とケア空間の学際的探究

研究課題名（英文）Future Population Ageing in East Africa: A Cross-Disciplinary Study of Social Welfare and Elderly Care

研究代表者

増田 研（Masuda, Ken）

長崎大学・多文化社会学部・准教授

研究者番号：20311251

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 26,400,000円

研究成果の概要（和文）：これまでに約10本の学術論文、約40件の口頭およびポスター発表、3冊の分担執筆書籍、1冊の報告パンフレットを公表することができた。「東アフリカにおける高齢者のケア」についての文献研究を進めたほか、アフリカ人口学会（2019年）に参加し、アフリカ各地の研究者や実務者との意見交換を実現した。第7回アフリカ開発会議（TICAD 7）では公式サイドイベント「アフリカの人口高齢化を見据えて：高齢者ケアの「今」と、大陸を越えて共有すべきケアのあり方」を開催した。現地調査では、ケニアでの倫理審査および調査許可取得を経て、コロナ禍による延期はあったものの高齢者のサーベイランスを実施できた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の出発点は、サブサハラアフリカにおける人口高齢化を見据えて社会的保護を組みこんだ社会設計のために、高齢者のケアをめぐる見取り図を「近親者による生活の世話」に留めず、公的扶助や民間領域までを含めたケア空間として捉え直す点にあった。このような、いわばマクロからミクロまでを包括した社会構造のなかで高齢者を考察する観点について、学術的領域とくにアフリカ研究や国際保健領域において発信を継続してきた。2022年に実現したケニア農村部における5,000人を対象としたサーベイランスはコロナ禍による遅れもありデータ分析の途上にあるが、今後の政策課題の検討に大きく寄与することが期待できる。

研究成果の概要（英文）：We have been able to publish about 10 scientific papers, about 40 oral and poster presentations, 3 books with shared authorship, and 1 symposium report. In addition to advancing our literature review on "Care-network for the older persons in East Africa," we participated in the African Population Conference in Uganda (2019), where we could discuss with researchers and practitioners from across Sub-Saharan Africa. At the 7th Tokyo International Conference for African Development (TICAD 7), we organized an official side event "Towards Population Ageing in Africa: Current Approach to Elderly Care, and Lessons to be Shared Across Continents". In the field survey, we were able to conduct surveillance and interview research among the older persons in Kwale County after a two-year delay caused by COVID.

研究分野：社会人類学

キーワード：人口高齢化 アフリカ 人口学 社会福祉 グローバルヘルス 文化人類学

1. 研究開始当初の背景

アフリカの諸国家ならびに地域社会は、21世紀に入ってから社会全般にわたる変化を経験している。人口の急激な増加、都市への人口集中、国家による介入度合いの強化、情報通信インフラの整備など、グローバル化によるモダニティの浸透と定着が著しく進んだといえよう。これらの変化のなかで、本研究課題が取り組むのはすでに始まりつつあるアフリカの人口高齢化である。人口高齢化は国家レベルにおいては社会保障と医療と福祉を強化させた新たな社会設計という課題を突きつけ、地域やコミュニティのレベルでは労働、生業、生産、家族、世帯といったあらゆるローカルシステムの再構築を迫る課題となる。こうした変化の最中において、人類学が民族誌記述によって取り組んできた定常的な社会モデルは適用しがたくなりつつある。

サブサハラアフリカにおける人口は1990年以降ほぼ2倍に増加し、2015年時点での総人口は10億人に達している。この人口増加の理由のひとつは疫学転換と健康状況の改善による生存率の上昇である。これに伴い、かつて40歳代にすぎなかった平均寿命は、2050年には70歳代、2100年には80歳代に達すると予測されている。他方で、近年では都市部を中心に出生率の低下傾向が見られ、今世紀後半以降には高齢者の人口比率が上昇することが確実視されている。こうした諸傾向が示唆するのは、現在の多産少死状況で生まれた大規模な人口が高齢者となって高い人口比率を占める時代、すなわち少子高齢化時代の到来である。

こうした未来を見据え、2010年代以降、アフリカにおける人口高齢化への対応が多く議論されるようになった。アフリカ連合(AU)は2016年に「高齢者の人権のための憲章」を採択し、各国の批准を待っている状況にある。国際老年学・老年医学会は2016年12月に第2回となるアフリカ地域会議をナイロビで開催し、各国政府やNGOの議論を通して長期介護(LTC)、年金制度の拡充、非感染症時代のヘルスシステム構築などの重要議題について制度設計を急ぐ方向性を確認した。

2. 研究の目的

- (1) 21世紀後半のアフリカの姿を見据えた、社会システムの未来を予測する研究であること。高齢化を都市化や人口の流動化、健康転換の進展の延長線上に位置する現象として捉え、いわゆる先進国の知見の応用可能性をも視野に入れている点で特色がある。
- (2) 人類学、地理学、国際保健学、看護学、医療経済学、人口学の協働作業によって遂行される分野横断的な取り組みであること。これにより福祉と保健の実務に耐えうる情報を提供しようとするところに特色がある。
- (3) 国際保健調査を土台として、ケニアのクワレにおいて実施されている人口動態サーベイ(HDSS)のプラットフォームを活用した、民族誌的調査と組み合わせる混合研究法(mixed method)を採用する。

3. 研究の方法

本研究課題では、(1)文献レビューによる最新の研究動向の把握、(2)政策担当者とのキーインタビュー・インタビューによる福祉政策の動向把握、(3)民族誌的手法による高齢者の生活とケア空間の重層性のマイクロ記述、(4)人口動態サーベイ(HDSS)データの活用による混合研究法を用いた生活調査の4つを調査活動の柱とする。

調査方法(4)では、1地点につき3~4名の研究者が担当し、DSSデータの解析、質問票の再検討、質問事項の追加によるケア空間の分析を進めるほか、質的なインデプスインタビューを並行して行う。さらには居住、生産活動、医療施設などの地理的な空間分析を重ねることで、家族ケアとコミュニティ・ケアの空間的把握にも試験的に取り組む。

4. 研究成果

(1) 2018年度

2018(平成30)年度の主たる活動は、(1)国内研究会の開催、(2)ケニア・クワレ県における調査の準備、(3)人類学的フィールドワークの実施、(4)国内および国外の学会・研究会への参加および開催の4点にまとめられる。

プロジェクトの研究会合は3回開催された。2018年7月6日(首都大学東京秋葉原サテライト)の会合では、今後4年間のスケジュールと分担者各自の実施計画を確認した。12月3日に国立社会保障・人口問題研究所で開催した研究会では、ケニアの調査を担当するチームが集まり、

倫理申請と調査許可取得に関する打ち合わせを行ったほか、ケニアで取得したセンサスデータの検討を行った。2019年3月15-16日(長崎大学坂本キャンパス)の研究会では、本年度の進捗を確認するとともに、2019年8月のTICADでのサイドイベントの企画実施に向けた協議を行った。

本年度の現地調査はケニアで進められた。分担者の波佐間は、ケニア北西部の牧畜民集落における高齢者生活調査の予備調査を実施した。クワレ班の増田・宮地・山本・林・野口の5名は調査地の確認を行うとともに、現地のHDSSスタッフと調査の進め方を協議した。ほかに、増田は短期間タンザニアのザンジバルと、モーリシャスを訪問し、調査の実施可能性について情報収集を行った。

プロジェクトの研究会のほか、多文化医療研究会(5月)、日本アフリカ学会(5月)、日本文化人類学会(6月)、日本公民館学会(7月)などにおいて口頭発表を行うとともに、日本国際保健医療学会東日本会(7月)においてはグローバルエイジングを特集したシンポジウムに協力し、同学会学術大会(12月)においては人口高齢化に関する自由集会の開催に協力した。

(2) 2019年度

2019(令和1)年度は年度当初の計画のうち、TICAD公式サイドイベントの開催と国内・国際学会での研究発表に注力した。当初計画のなかでケニアおよびエチオピアにおける調査許可の取得については、年度末に発生した新型コロナウイルスによるパンデミックの影響により渡航が不可能になったこと、および、現地研究機関が業務を停止していることにより、手続き等を進めることができなかった。

第7回アフリカ開発会議(TICAD VII、2019年8月に横浜で開催)では、公式サイドイベント「アフリカの人口高齢化：高齢者ケアへの最新のアプローチと大陸を超えた学びの共有」を開催し、セネガル、ケニア、インドネシアから招へいた専門家と本プロジェクト代表者による講演を行った。本イベントは、科研プロジェクトを主催とし、高齢化を取り上げた集会としてはTICADでは初の試みとなった。その後、イベントの成果を英文報告書としてまとめ、プロジェクトが新たに立ち上げたウェブサイト Global Ageing Study Group (<http://global-ageing.org/>) にてウェブ公開された。

学会活動としては、2019年5月に京都で開催された日本アフリカ学会学術大会において、ケニアで進めている現地調査の予備的成果を発表した(優秀ポスター賞を受賞)。また、日本国際保健医療学会において自由集会「グローバルエイジングへの国境なき挑戦」を開催し、国際保健領域への成果還元に努めた。

国際学会では、2019年9月にスペインのタラゴナで開催された国際学会「高齢者と従属者のためのケア：ジェンダー平等と社会的正義」に増田と宮地が出席し、ケニアにおける調査結果を発表した。また11月にはメンバーのうち増田と林が第8回アフリカ人口会議に参加し、林が2件の研究発表を行った。

(3) 2020年度

2020(令和2)年度の当初計画のうち、現地調査は実施できなかった。これは新型コロナウイルス感染症の感染拡大により派遣国(日本)側および派遣先相手国側双方で渡航制限がかけられたことによる。また対面での研究会開催が見送られたことで、数回にわたって国内でのオンラインの打ち合わせを実施した。進捗があったのは以下の7項目である。

ケニア医学研究所(KEMRI)における研究許可申請：長崎大学にて特任研究員を雇用し、現地調査の実施にむけてKEMRIにおいて研究倫理審査の申請作業を実施した。

日本アフリカ学会第57回学術大会公開シンポジウム(オンライン)において増田がエイジング研究について講演を行った。

日本国際保健医療学会学生部会(jaih-s)のオンラインセミナー「アフリカ地域の人口転換と公的福祉サービス」において増田が講演を行った

グローバルヘルス合同大会(オンライン)のシンポジウム「世界とつながる持続可能な高齢化対策」において増田が講演を行った。

グローバルヘルス合同大会においてケニアの人口動態と高齢者の生活状況に関して研究発表を行った(筆頭著者：吉野龍史、分担著者：増田研、金子聡、佐藤美穂)。

日本人口学会フォーラムにおいて増田と林が報告を行った。

オンラインでの研究会を実施し、ケニア倫理申請書の作成準備、およびアフリカ高齢者政策の勉強会を開催した。また2021年3月にはセネガル保健省のムーサ・ジャハテ博士を講師に招き、セネガルにおける高齢化状況ならびに高齢者政策に関するオンライン講演会を開催した。

(4) 2021年度-2022年度

2021(令和3)年度は、新型コロナウイルス感染症の世界的感染拡大が終息しないため、調査

のための海外渡航は実現しなかった。進捗としては以下の3点が挙げられる。日本国際保健医療学会においてシンポジウム「コロナ禍のアジア・アフリカにおける高齢者の生存：地域社会と保健システムを模索する」を開催し、本研究班より増田、宮地、堀井、林、吉野（研究協力者）が登壇した。また、ケニアにおける研究倫理審査を完了し、調査許可を取得した。

当初計画に則り、文献調査およびセンサスデータの収集によって東アフリカの高齢者に関する情報収集および研究成果の発表は可能であったが、当初企図していた現地調査のうちエチオピアでの実施は見送り、ケニア（クワレ県）でのみ実施することに方針を変更した。

本プロジェクトの特色は量的手法と質的手法を組み合わせた混合研究法アプローチを採ることにある。そのため渡航が可能となった2022年度には分担者のうち堀井と宮地がクワレに滞在して高齢者への質的なインタビューを実施したほか、増田と宮本が量的サーベイおよび地理状況確認のため現地に滞在した。なお、各担当者は以下の時期に現地調査を実施した。

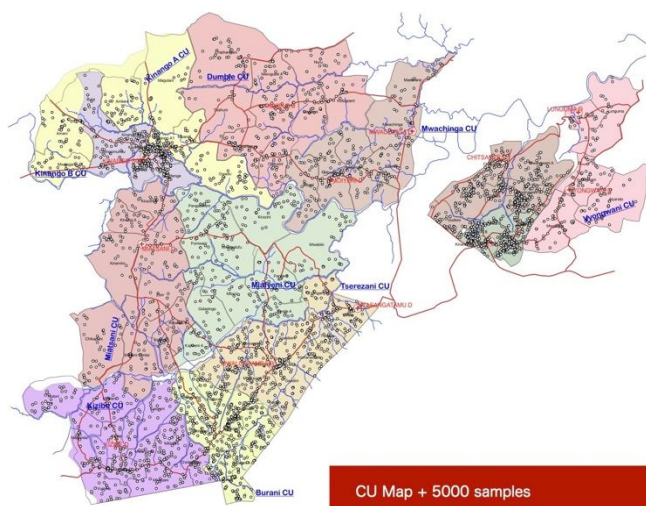
- 堀井聡子：2022年5月
- 宮地歌織：2022年5月、2023年2月
- 宮本真二：2022年10月
- 増田研：2022年9-10月

なお、このほかに研究協力者の吉野龍史が2022年10月に短期間現地滞在中に高齢者の身体機能に関する予備的調査を行ったほか、サーベイランス実施のため特任研究員が9月から12月までの期間現地に滞在した。

(5) クワレにおけるサーベイランスの概要

本研究はコロナ禍による2年あまりの遅延により、現地調査によって得られたデータの分析と公表が完了していない。そのため、ここではクワレで実施した高齢者サーベイランスの概要を記録する。

サンプリング



長崎大学とケニア医学研究所（KEMRI）が共同で実施する人口動態サーベイ（HDSS）よりデータの提供を受け、高齢者および高齢者予備群にあたる40歳以上の住人を抽出した。その数は約10,000人であり、そこからランダムサンプリングにより5,000人の調査対象者を選び出した。対象地域の人口は約60,000人であり、それが12のコミュニティユニット（CU）に分布していた。左図はサーベイ実施にあたり作成したマップであり、サンプリングされた対象者の分布を示している。

なお、対象地における平均的な高齢化率（60歳以上人口比率）は概ね5-6%であったが、CUによっては8%台に上るところもあり、とくに都市部から離れた遠隔地の農村において高齢者が進みつつあることが示唆される。

実施体制

実施責任者を増田とし、武田七重（特任研究員）と現地人スタッフの2名をコーディネーターとするサーベイランスチームを結成した。データコレクターとして12名を雇用し、そのうち2名をマネージャーに任命した。データコレクターが世帯訪問をするにあたっては各地にいるコミュニティヘルスボランティア（CHV）の協力を仰いだ。

サーベイにあたって、過去に実施され公開されているいくつかの調査票を比較検討したうえで本研究のための新しいクエスチョネアを作成した。この質問票は研究協力者の吉野龍史

によってオープンデータキット(ODK)サーバーに移植され、データコレクターはスマートフォンを用いて聞き取りを実施した。

得られたデータはプロジェクトのために用意された ODK サーバーに蓄積された。

実施の結果

サンプリングされた 5,000 人の対象者のうち、「不在」「転居」「死亡」「不同意」などの理由でデータを得られなかったケースがあったが、全体では 4,700 人への聞き取りを行うことができた(回収率 95%)。

データの分析が完了していないため、その内容についてはまだ公開できる段階にない。今後はこのデータの解析を進めること、および、質的インタビューデータとの突き合わせによって本研究の課題である「ケア空間」についての議論を進めることが必要である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計12件（うち査読付論文 6件 / うち国際共著 5件 / うちオープンアクセス 5件）

1. 著者名 Amp Miyachi Kaori, Masuda Ken	4. 巻 22
2. 論文標題 A preparatory study of care for elderly women in rural Kenya	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Arxiu d'Etnografia de Catalunya	6. 最初と最後の頁 127 ~ 127
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.17345/aec22.127-146	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 林玲子	4. 巻 75(2)
2. 論文標題 長寿化の進展と健康の変遷 日本の場合	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 人口問題研究	6. 最初と最後の頁 123-136
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 林玲子	4. 巻 75(4)
2. 論文標題 外国人介護人材の人口的側面とその国際比較	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 人口問題研究	6. 最初と最後の頁 365-380
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山本秀樹	4. 巻 68
2. 論文標題 特集「超高齢社会を生きる学び」少子高齢社会と公民館 - 薬のむより公民館の意味するところ	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 月刊社会教育	6. 最初と最後の頁 14-22
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 林玲子	4. 巻 70
2. 論文標題 国際人口移動の数え方	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 統計	6. 最初と最後の頁 38-44
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Xueying Jin, Nanako Tamiya, Boyoung Jeon, Akira Kawamura, Hideto Takahashi, Haruko Noguchi	4. 巻 18
2. 論文標題 Resident and facility characteristics associated with care-need level deterioration in long-term care welfare facilities in Japan	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Geriatrics & Gerontology International	6. 最初と最後の頁 758-766
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/ggi.13248	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 波佐間逸博	4. 巻 83
2. 論文標題 北東ウガンダ牧畜民の抵抗におけるシティズンシップの実践	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 文化人類学	6. 最初と最後の頁 256-273
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計49件(うち招待講演 4件/うち国際学会 20件)

1. 発表者名 増田研, 林玲子, 野口晴子, 堀井聡子, 宮本真二, 宮地歌織, 吉野龍史, 山本秀樹
2. 発表標題 アフリカの村落における高齢者のケアと健康: 人口動態サーベイを活用した人類学・国際保健学・人口学の混合アプローチ
3. 学会等名 海外学術フェスタ
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 増田研
2. 発表標題 コロナ禍のアジア・アフリカにおける高齢者の生存：地域社会と保健システムを模索する
3. 学会等名 第36回日本国際保健医療学会学術大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 堀井聡子
2. 発表標題 高齢化するベトナムの看護教育
3. 学会等名 第36回日本国際保健医療学会学術大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 宮地歌織
2. 発表標題 ケニア農村における高齢化と女性：HDSSの活用と人類学的調査より
3. 学会等名 第36回日本国際保健医療学会学術大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 増田研
2. 発表標題 アフリカの高齢者の現状
3. 学会等名 グローバルヘルス合同大会2020
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 吉野龍史・金子聡・佐藤美穂・増田研
2. 発表標題 ケニア共和国クワレ郡における高齢化と高齢者の生活状況の実態について
3. 学会等名 グローバルヘルス合同大会2020
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 増田研
2. 発表標題 人口急増のアフリカに芽生える少子化希求：エチオピア南部パンナ社会の変化を追って
3. 学会等名 日本人口学会第72回学術大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 増田研
2. 発表標題 研究から実務への距離、あるいは「役に立つ」の加減：アフリカにとってのグローバルヘルスとグローバルエイジング研究、そして、その社会的意義
3. 学会等名 日本アフリカ学会第57回学術大会公開シンポジウム「アフリカ研究と社会との繋がりを考える：開発をめぐる対話」（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 林玲子
2. 発表標題 アフリカの高出生と日本（東アジア）の超低出生 一夫多妻と未婚の比較から
3. 学会等名 日本人口学会第72回学術大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Kaori Miyachi
2. 発表標題 "Health and Social Care for Elderly People in Kenya with Gender Perspectives"
3. 学会等名 Annual Conference of Association for Anthropology, Gerontology, and the Lifecourse (AAGE) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 増田研
2. 発表標題 エチオピアにおける社会福祉政策の展開、1960年代から現在まで
3. 学会等名 国際保健医療学会第38回西日本地方会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 増田研
2. 発表標題 TICADに高齢者 이슈を持ち込む
3. 学会等名 第34回日本国際保健医療学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kaori MIYACHI and Ken MASUDA
2. 発表標題 Anthropological Study on the Care for Elderly Women in Rural Area in Kenya
3. 学会等名 International Conference "Caring for Elderly and Dependent People: Promoting Gender Equality and Social Justice" (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Ken MASUDA
2. 発表標題 Population Aging in Africa: Anthropological perspective
3. 学会等名 TICAD VII Official Side-Event "Towards Population Ageing in Africa: Current Approach to Elderly Care, and Lessons to be Shared Across Continents" (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 増田研
2. 発表標題 アフリカの高齢者ケアをめぐる「3つの神話」を問い直す：社会福祉と親族研究の接続領域から
3. 学会等名 比較家族史学会 第65回春季研究大会シンポジウム「世代間関係」（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 増田研・林玲子・野口晴子・山本秀樹・福田英輝・宮地歌織・Morris Ndemwa・金子聡
2. 発表標題 アフリカ農村部高齢者の生活・健康・ケア：ケニア、クワレ県におけるHDSSを用いた研究の予備的報告
3. 学会等名 日本アフリカ学会第56回学術大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Reiko Hayashi
2. 発表標題 Care need in very old age - A comparison of four countries
3. 学会等名 Population Association of Korea 2019 First Biannual Meeting, (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Reiko Hayashi
2. 発表標題 Health and long-term care workforce shortage and the role of migration
3. 学会等名 International Conference on Population Geographies (ICPG) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Reiko Hayashi
2. 発表標題 Human Resources for Health and Social Work in Sub-Saharan Africa - International Comparison of Demographic Aspects
3. 学会等名 8th African Population Conference (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Reiko Hayashi
2. 発表標題 Modernization and Development Through Changing Population Dynamics
3. 学会等名 46th Session of the Academy of The Kingdom of Morocco "Asia as a Horizon for Thought - Japan, Experiences in modernization and development" Third Plenary Session (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 山本秀樹
2. 発表標題 持続可能な開発目標(SDGs : Sustainable Development Goals)と公衆衛生 「だれも取り残さない」と法医学の役割
3. 学会等名 日本公衆衛生学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 山本秀樹
2. 発表標題 Global Ageing の政策研究 都市における高齢者の課題SDGsの観点から
3. 学会等名 第34回日本国際保健医療学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 増田研
2. 発表標題 少子高齢化時代を迎える「未来のアフリカ」のイメージトレーニング
3. 学会等名 第4回 多文化医療研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 増田研
2. 発表標題 アフリカ子ども学の学術的・社会的意義を考える：「グローバルヘルス」と「高齢化する未来のアフリカ」研究の視座から
3. 学会等名 日本文化人類学会第52会学術大会分科会「アフリカ子ども学と文化人類学：表象・学び・アイデンティティ」
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 増田研
2. 発表標題 強き老人、弱き老人、家族ケア：サブサハラ・アフリカにおいて高齢にまつわる3つの神話を問い直す
3. 学会等名 日本国際保健医療学会第33階東日本地方会シンポジウム「輝けるグローバルエイジングへの垣根なき対話」
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Ken Masuda
2. 発表標題 Challenges of Social Welfare, Long-Term Care and Insurance System in Hyper-Aged Japan
3. 学会等名 RB Lecture Theatre of University of Mauritius (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 増田研
2. 発表標題 迫り来るアフリカの高齢化：近年の動向
3. 学会等名 第33回日本国際保健医療学会学術大会 自由集会「グローバルエイジングへの国境なき挑戦」
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 林玲子
2. 発表標題 アフリカの保健・社会福祉人材～センサスデータでどこまでわかるか
3. 学会等名 日本アフリカ学会第55回学術大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Reiko Hayashi
2. 発表標題 Long-term and palliative Care through the perspective of human rights - now and then in Japan -
3. 学会等名 3rd ASEM Conference on Global Ageing and Human Rights of Older Persons (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Reiko Hayashi
2. 発表標題 How will the long term care context evolve as families change?
3. 学会等名 HelpAge Asia-Pacific Regional Conference 2018, " Family, Community and State in Ageing Societies " (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Akira Kawamura, Haruko Noguchi
2. 発表標題 The budget system and inefficiency for national health and long term care insurance
3. 学会等名 EUHEA Conference 2018 (European Health Economics Association (EuHEA)) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Mayumi Imahori, Takashi Kurihara, Haruko Noguchi
2. 発表標題 Do income affect medical care and LTC expenditure for the elderly?: Based on claim-data under the universal system in Japan
3. 学会等名 EUHEA Conference 2018 (European Health Economics Association (EuHEA)) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Kaori Miyachi
2. 発表標題 Diversification of " Family Care " for Elderly Women in Rural Kenya : Consideration of Potentials beyond " Family "
3. 学会等名 18th IUAES (International Unions of Anthropological and Ethnological Sciences) World Congress (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 宮地歌織
2. 発表標題 ケニア・クワレ地区の高齢者女性への聞き取り調査について
3. 学会等名 第33回日本国際保健医療学会自由集会「第7回グローバルエイジングへの国境なき挑戦」
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計4件

1. 著者名 小池誠、施利平、根本みなみ、宇野重文、冷水登紀代、水嶋陽子、中西泰子、村上あかね、鄭楊、金香男、中村沙絵、高橋絵里香、増田研	4. 発行年 2021年
2. 出版社 日本経済評論社	5. 総ページ数 338
3. 書名 家族のなかの世代間関係：子育て・教育・介護・宗族	

1. 著者名 牧野久美子、増田研、玉井隆、戸田美佳子、浜田明範、網中昭世、村尾るみこ、岩崎えり奈、村上薫、細谷幸子、松尾昌樹、北澤義之、白谷望、井堂有子、小野仁美	4. 発行年 2020年
2. 出版社 旬報社	5. 総ページ数 471
3. 書名 『新世界の社会福祉 第11巻 アフリカ/中東』	

1. 著者名 Reiko Hayashi ed.	4. 発行年 2019年
2. 出版社 ERIA Research Project Report 2018, No.8	5. 総ページ数 42
3. 書名 Demand and Supply of Long-term Care for Older Persons in Asia	

〔産業財産権〕

[その他]

Global Ageing Study Group
<http://global-ageing.org/>

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	波佐間 逸博 (Hazama Itsuhiro) (20547997)	東洋大学・社会学部・教授 (32663)	
研究分担者	宮地 歌織 (Miyachi Kaori) (40547999)	佐賀大学・芸術地域デザイン学部・客員研究員 (17201)	
研究分担者	山本 秀樹 (Yamamoto Hideki) (50243457)	帝京大学・公私立大学の部局等・教授 (32643)	
研究分担者	宮本 真二 (Miyamoto Shinji) (60359271)	岡山理科大学・生物地球学部・准教授 (35302)	
研究分担者	田川 玄 (Tagawa Gen) (70364106)	広島市立大学・国際学部・教授 (25403)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	堀井 聡子 (Horii Satoko) (70617422)	富山県立大学・看護学部・准教授 (23201)	
研究分担者	林 玲子 (Hayashi Reiko) (70642445)	国立社会保障・人口問題研究所・国立社会保障・人口問題研究所・副所長 (82628)	
研究分担者	野口 晴子 (Noguchi Haruko) (90329318)	早稲田大学・政治経済学術院・教授 (32689)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	吉野 龍史 (Yoshino Ryuji)		
研究協力者	門司 和彦 (Moji Kazuhiko)		
研究協力者	野村 亜由美 (Nomura Ayumi)		
研究協力者	福田 英輝 (Fukuda Hideki)		

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計1件

国際研究集会 TICAD 7 Official Side Event "Towards Population Ageing in Africa: Current Approach to Elderly Care, and Lessons to be Shared Across Continents"	開催年 2019年～2019年
---	--------------------

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
ケニア	Kenya Medical research Institute			